

HAND IN HAND

はんど いん はんど

昭和62.7.28

国立婦人教育情報図書

〔狂乱の地価高騰、身边にまでヒシヒシと〕

■娘のお友達が引っ越して、2DKの狭いマンションが3千万ほどで売れたと聞いたのは、つい去年の3月。翌月の新聞折り込み広告に、その部屋が5千万近くで売りに出されているのを見て仰天しました。そして新聞等で報道される狂乱の地価高騰。一生、土地も家も持つ気もなし、買う力もない身でも、3DKくらいのマンションが1億というのはどうにもバカげていると思っていました。

■そのうち、まわりの様子がジワジワと、そして今年に入って急速に変ってきたのです。昔からの古い商店街から魚屋も花屋も文房具屋も消え、駐車場も何もかもファッションビルになり、保育園のお友達も続々と引っ越していきました。そして、我が事務所と自宅まで立ち退きを要求されたのです。家賃が高くてヒイヒイ言いながらも、職住保育が接近なのでかろうじて頑張るつもりでいたのですが、2階建てのアパートでは大家としては効率が悪いのでしょうか。坪3千万や5千万で売れる土地になったので、誰もが目の色変えている感じです。

■来年10月で、ニコニコ離婚講座が100回を迎えます。それまで頑張ってあとはぜーんぶやめちゃおうかしら、なんて思ったり。家賃に追われて貯金はなし。ここを出れば同じような家賃ではもうとても借りられないし、ハンド・イン・ハンドの経費はかさむ一方だし。

■でも、こんなことで負けてはいられません。そのうち、誰も買わなければ、地価だって家賃だって落ちつくかもしれないし、明日は明日の風が吹く。カウンセリングで、自分のいやな気分から立ち直るためのロールプレイがあります。私もそれをやってみるつもりです。 (円より子)

海を渡る鳥は、波間を漂う流木に憩うという。離婚—それは旅の半ばのひとつの出来事。新たな旅立をした女たちはいま手を取りあい、女であるがゆえの偏見と差別に向きあう。ハンド・イン・ハンドは生きやすい社会をめざし、支えあう女たちの流木である。

第75号 200円 禁無断転載

【発行日】1987年7月1日

【発行所】現代家族問題研究所

東京都渋谷区神宮前3-33-2-202

〒150 電話03(402)7354

【発行・編集人】円より子

【編集スタッフ】

有賀佐知子・塩沢まや

75

現代社会における 女性の危機

☆カウンセリング研修会(第七期中級クラス)で吉川武彦先生(東京都立中部総合精神衛生センター地域保健部長)においていただいた話が大変有意義でしたので、みなさんにもご紹介いたします。

現代の危機

まず、現代社会のかかえている危機について、精神科医の眼から3つほど問題点を挙げてみたいと思います。

第1は、**精神的過疎**、つまり人間関係が過疎化してきていることです。どんなに人間が過密状態の中に住んでいても、関係が過疎化しているのは事実です。人数が少なくなっても、関係が深まっていればまだいいんです。ところが、人間の関係の過疎化が進んでしま

って、育児などの体験が下に伝達されていかない、という問題があります。ですから、精神的過疎の問題は、決して無視できません。

もうひとつは、**精神の管理化**が挙げられます。学校教育の中で画一的に扱われることを経験した子供たちが、すでに大人社会の中に入りはじめています。その青年たちが、これからどういう自己決定をしながら、社会を動かしていくかなくてはならないか、立往生しています。

学校の中で受け身で生活してきている者は、**能動的に行動**することが

下手です。こういう若者は、会社でも管理しやすい。そして、すでに一部の会社では、画一化管理が始まっています。その中に、子供たちが乗っかっていくことは簡単です。むしろ、そのために人間性が失われていく。精神科医として、非常に危惧しています。

こういう形で、子供の教育がされ、社会の中で人間管理がされる。したがって夫婦の関係をひとつとってみても、お互いが、きまつたルールに乗っつてしか歩けない2人が結婚して生活した時に、レールのない生活に、どこまで入りこめるか、非常に疑問です。これからの問題として、画一化の波がこのまま進むことを、我々は警戒していかなくてはいけないと思います。

第3点は、成熟の拒否の問題。

今、男女を問わず、成熟の拒否の傾向が非常に高い。したがって、生物学的な意味で、あきらかに思春期をこえたと考えられても、精神的には、成熟を迎えていない人たちが、かなりいます。これは、例えば、拒食症や登校拒否などの形で現われます。すなわち、大人社会に入りきれないということは、

自分が大人になることを、どこかで拒否しているんです。

特に、女性の拒食症がかなり広がっています。一方では、肥満への恐れという解釈もできますが、そういう表面的なとらえ方では、とうてい済まない、成熟を拒否する、成熟をできるだけ延期しようとする、モラトリアム現象です。

女性の危機

今度は、女性の危機の問題として、私がとらえているものを、3つほど挙げましょう。

まず、第1は、**女性の生物学的成熟が早まっています**。そのことと、**心理、社会的な成熟がひき延ばされている実情**があります。これは男女を問いません。例えば、かつては15歳を過ぎると、もう大人扱いでした。それが今は、高卒後どころか、大学卒業くらいまで大人扱いをしないわけです。つまり、心理、社会的に、成熟できない状態におかれているわけです。現在は、初潮の発現年齢が早くなっています。例えば9歳で初潮になると、大人になっているという意識を持たざるをえないところ

にありながら、なおかつ20歳くらいまで大人にしてもらえない10年間を歩まなければいけない。15歳ぐらいで初潮発現、15歳ぐらいから大人の世界に入らざるをえなかった、40年ほど前と比べたら、猛烈なストレスです。これが生物的な問題です。

それから、同じような生物的背景があつて、なおかつ女性の問題として一番問題になつてきているのが、更年期の問題です。

閉経の平均年齢が、今はぐんぐん遅れています。今から30年前は、大体、40歳から45歳ぐらいでした。それが今では、45歳で閉経なんてとても考えられなくて、完全に50歳を過ぎました。50歳を過ぎたのが、今から、5〜6年前です。今は、大体、52歳ぐらいのところまで上がってきています。

それでは、かつての閉経に伴う更年期障害は、52〜53歳ぐらいのところが発現するかというと、実は全然違うんです。更年期障害といわれている、諸々の不定愁訴は、実は今、35〜36歳頃から始まっているんです。精神科ばかりでなく内科、婦人科に訴えられてくる、たくさんの不定愁訴は、40歳前です。

これは、子供の教や、女性のライフサイクルの変化に関係します。以前は、35歳で産んだ子供が10歳になると45歳ですから、ちょうどその頃に子供の手が離れ、生理も止まったり、身体的な不調が全部重なつていたんです。ところが今は、35歳で産むのは、むしろ遅い方で、大体30代に入るか入らないところで、最後の子供を産みます。ですから、その子供が10歳というと、母親は30代なんです。30代で、すでに子供の手が離れてくると考えられます。それと、更年期障害の中で見られる、不定愁訴の発現は、ほぼ一致していると思われれます。これは、子育ての問題と関係がありそうです。

これは、一般の家庭の主婦を念頭においてお話ししていますから、就労している女性とは多少違う点があるかもしれません。そうすると、今まで更年期障害と考えられてきた閉経の問題と、諸々の訴えとは、本来一致してはいないのではないだろうか。ちょうど閉経期に子供の手が離れ、これからの自分の生き方を決定しなければいけないという問題と、閉経期が、たまたま重なったのかも

しれない。心理的な問題として、私たちは女性の更年期の問題をもつと真正面から取り上げていかななくてはならないのではないかと思つています。これは、例えば今、問題になつている、空の巣症候群(からのすしょうこうぐん=empty nest syndrome)は、子供たちが巣立つていったあとの、ぼんやりした母親の状態を表わした言葉です。これはすぐにアルコールの問題、キッチン・ドリンカーにつながってきます。ですから、35〜36歳の問題は、単に不定愁訴の問題として取り上げるのではなくて、不定愁訴の形で出てこなければ、一気に不安状態が出て、それがアルコール依存症などにつながるのです。

ボケの問題

もうひとつが、高齢化社会の問題です。高齢化社会における女性の役割が、大きく変化しつつあります。自分の高齢化はさておき、高齢化した人の面倒を見なくては

いけない、ということが増えてつづきます。80まで生きることになり

りますと、50代で80代の親の面倒を見ざるをえないんですね。本来なら子育ても終え、自分が老人の域に達していたのに、今は、まだ使える人間として、年寄りの面倒を見なくてはいけない時代にさしかかっています。

私は今から3年前の59年の5月に、厚生省の役人から頼まれ『ボケの人間学』(希望者は事務局まで郵送料二〇〇円を合計した切手五〇〇円分を封書でお送り下されば発送します)という本を書きました。これは半分くらい、83歳だった父親のことを書いています。4年ほど前、ボケた父親を見て「これは脳の障害によるボケではない」と判断し、手をかけはじめました。半年は変化なし。ただ、話をする時は必ず、手を握つたり肩を抱いたりして、父親にわかるように話しました。そうすると、だんだん私の話に理解を示すようになりました。

ボケるといふことは、人間関係が薄くなつてくることに関係します。それともうひとつ、役割とか責任などが欠けて、生きがいを求めるチャンスが失つて、急速にボケてしまいます。したがって、一

もうひとつ、生きがいの問題で背のびをしない、無理をしないということが大切です。そうしないと、現実の中で生きがいを探せず、生きがい喪失が起こってしまいます。これが、女性高齢者の自殺につながっています。

高齢女性の自殺

高齢化社会の女性の危機として第1に私は自殺を挙げています。

日本は高齢になってからの自殺が増えているのが特徴です。女性の高齢者自殺は、ハンガリーと日本だけなんです。

もうひとつ、今は中年自殺が猛烈に進んでいます。45から60歳くらいまでの自殺が増えています。時代の変動が、人間の生き方を根底から揺るがしていることが、自殺の構造の変化を見てもわかります。

次に、うつ病です。先ほども申しましたように、うつ病の発現が早くなっています。かつて45歳くらいで更年期うつ病としたのが、最近では35歳で子育てを終了しているのに、更年期うつ病と考えられるうつ病が発現しているのです。これが、うつ状態が始まらず、便

秘とか、生理不順などの、身体的な訴えで始まるんです。これを仮面うつ病という言葉で呼びます。本当はうつ病であるにもかかわらず、身体的な訴えで始まるうつ病、これはノイローゼとは根本的に違うので、薬物が非常によく効きます。

うつ病は自殺をする危険が非常に高いです。それを防ぐために、効うつ剤を早めに投与して、できるだけうつ状態を早くとることが大切です。

それと、高齢者のうつ病も増えていきます。かつては、女性の50を過ぎた人は、うつ病にならなかつたわけです。ところが、50を過ぎて閉経期を迎え、肉体的な衰え感を感じ、それを境にうつ状態になるわけです。もっと遅い、70代のうつ病もできています。これがわかりません。70代の女性のうつ病は、夫を亡くしたり、身の回りの人が死んでゆく事実に基づいて老人性のうつ病が、だんだんと伸びてきたと考えられるかもしれせん。

したがって、女性がうつ病になる期間が増えてきたんですね。30代、50代、70代と、3代のうつ病

です。

そこで、再びボケの問題です。実は女性はいくらボケませぬね。

ボケはいろいろな問題を抱えています。生物学的なボケであつても、再獲得のスピードが早ければボケのスピードになんとか打ち勝てるのではないかと思います。ですから、決してボケが直らないと私は考えていません。

ましてや、心理的や社会的な関係でボケが進んでいることに關しては、私たちがボケさせているということもあるのですから、ボケさせている原因を、私たちはできるだけ排除するしかないわけです。

さて、ここまで、できるだけ女性の問題について触れたつもりですが、実は、女性だけの問題で済むわけではないんです。私たちは、



トータルなものとして考えざるをえないんです。トータルなものというところに気がつきながら、男性も女性もなく、なおかつ、女性の役割、男性の役割をお互いに認識しながら、この問題をうまく処理していかないと、高齢化社会に対応できなくなってしまう気がします。

特に女性の場合、結婚していても、夫が亡くなった後、最低5年間は単身生活を送らざるをえませんが、今のように、子供との同居が考えられない時代は、必ず単身の老後を迎えなくてはならないからこの問題を無視してはやっていけないわけです。

そこで、仲間づくりしかないと思います。私たちはお互いに地域社会の中に住んでいるわけですから、地域社会の中で仲間として生きていく、そういう関係を、もう一度作りあげていかなければいけないのではないかと思います。決して高齢者だけのつながりではなく、あくまでも、たてのつながりを重要視していかなければいけないと思います。

(文責/円・有賀)

■夏合宿のお知らせ

小学生の参加募集中

恒例の研修合宿も八回目を迎えます。国立婦人教育会館は研修施設・宿泊施設共に立派で低料金、資料もそろっているので大助かりですが、学齢前の幼児しか同伴でできないので困っていました。というのは、私たちは小中学生も連れていき、子供たち同士仲良くなってくれ、親には話さないことを同じ境遇の友達同士で語りあえるようになってほしいと考えるからです。

教育会館のほうでも考慮してくれ、たとえば、子供たちの成長過程における離婚や別居の影響を考察するといったテーマでなら、学齢以上の子供を連れてきて、研修室を使うこともできるといいます。

まず、仲良くなり、子供たちが合宿後も行き来でき、母親同士も同じ年頃の子供のことで話しあえるようなネットワークづくりをしてみたいと思っています。

☆ ☆ ☆

日時は八月八日(土)九日(日)です。川原でのミニキャンプやお弁当。運動場でのかけっこ、ゲーム、研修室での親子ロールプレイ等、いろいろ計画しています。

定員三〇名(子供は一五名)。

費用は宿泊・四食込みで五千円くらい。

ふるってご参加ください。問い合わせは四〇二七三五四へ(月金の十時~十七時)。申し込み者には詳細を追ってお知らせします。

☆ ☆ ☆

※ベビシッターのアルバイトも募集しています。合宿中、子供たちと一緒に遊んだり話したりしてくれる、お兄さん、お姉さんはいませんか。高校・大学生以上の方。もちろんアルバイト料は支払います。



■老人ホーム見学

カウンセリング研修会のメンバーで埼玉県飯能にある軽費老人ホームシルバーハウス「希望の園」と特養の「あしかり園」を見学します。九月五日(土)十時~十六時のスケジュール。定員三〇名ですが、関心のある方は事務局塩沢まで(〇三三四〇二七三五四)

ハンド・シネサロン

「風が吹くとき」

斉藤 道子

先日「風が吹くとき」というイギリスのアニメをみました。

これは、レイモンド・ブリック

スの原作で、出版されるや英国でベストセラーとなったものの映画化です。ここに登場するジムとヒルダは片田舎で年金生活をしている普通の老夫婦です。彼らは、核

戦争がはじまるときいても、前の戦争でも生きのびたんだから、今

度も鉄カブトでがんばるわといひ、

シェルターは60度にとり政府の手

引書をみながら分度器を探しま



わったりしている。食事の仕度をし、お茶をのみ、洗濯物を取り入れなくちゃとあせる。しかし一瞬の閃光は全てを破壊し、ようやく生き残った彼らも放射能におかされていくのです。新鮮な果物がぐずぐずとくずれていくような二人の変化に、いい知れぬ恐怖と吐き気をおぼえました。

こんなになるまでのん気にしていてはだめなんだと叫び出した気持ちと、しかし、いくら抵抗してもどうにもならない巨大な力が、今、私たちの世界の上にあるという絶望感に交互におそわれた映画でした。

(夏休みに全国一斉ロードショー。日本語版監督・大島渚)

ハンド・イン・ハンドは、みなさんがつくる雑誌です。

みなさんの日常考えていることや、生活の匂いが伝わってくるような、そんなハンド・イン・ハンドでありたいと思います。お便りをどんどんお寄せください。

再婚：どう考えますか？

山口県・K

七三号の広島の名希望の方の私に対する意見を讀ませて頂きました。アドバイスして下さってとても有難く思っております。なるべく外の世界へ目を向けるようにするのですが、時々こうして体の方がついて来なくなるのです。離婚して七年たちました。現在三十六才、やはり再婚すべきかと迷っております。皆様は再婚の事どのようにお考えでしょうか。ご意見が伺えたら幸いに存じます。毎月ハンド・イン・ハンドを楽しみに讀ませて頂いております。

子連れで再婚：がんばっています

福島県・T

初めて新聞でハンド・イン・ハンドの会を知ってから三年になるうとしています。あの当時の頃の事を思うと、現在の平和な毎日が信じられないくらい。再婚して半

年余りが過ぎました。子供達もよ

その思わくとは無関係という感じで、三人仲良く、まるで初めからほんとうの血のつながったような姉兄妹です。もちろん、初めは長女（これが私のつれて来た子）に抵抗はありましたよ。もう小六になりませんが、かえって小さいならほんとうに小さい方がすんなり入ってくれるようですね。私も出来れば主人の子供達と、あと二、三年早く出会いたかったように思いました。初めから、お母さんお母さんと呼んでくれて、事情を知らない人達から見れば、何のことはない普通の親子に写るでしょうね。初めは姓の事で一つ目の抵抗がありました。現在も私の旧姓のまま、住所も実家のまま結婚前と同じ学校に通っています。私がいわゆる跡目を継ぐ長女なのに家を出てしまいい、現在実家には誰もいないので、実家の父母もいずれば私の長女に家を…という思いがあるようです。初めて主人の子供達に会った時、

さすがにとまどいました。自分に二人もの子供を見ていけるかどうか自信がなかったから。でも私はこの子達の母親になって、亡くなった主人の奥さんの代りを務めようと決心しました。同じ子供として母親のいないのはとても可愛想に思えたのです。今でも春と秋の彼岸とお盆には、二人で朝早くお墓参りに行っています。

ただ、感情の中でお互いの過去の相手に対してちよつとした事で（例えば、昔どこどこへ旅行して知っている場所とか出ると）焼きもちをやいて、互いに言い合う事もあります。でもストリートにパッパッと口に出してしまふので、いつもけんかになりません。これもお互いを刺激しあつて、かえって新鮮になるので良い方法かな：と思つたりして。とても明るいつきあい方をしてると思つています。ただ主人の子を保育所に途中入所させた時、保母さん達に事情を話してしまつたので、いつも保母さん達が自分をままだからという見方で見ているんじゃないかという思いが自分の中にうずまいていて、それと争っている事に疲れを覚えた事があります。自然に

振舞っているつもりでも回りの目がとても気になるし…。いつそのこと、何も話さなければ…と、話をした主人を恨んだ事もありました。三人共、皆平等にする事が我家のモットーです。しかる時は思いきりしかります。遠慮していたら自分がいつ迄も持ちませんからね。ほんとうは、あと一人子供が欲しいのです。でも、生活も大変ですし、自分達の子供が出来たらそれこそえこひいきしそうで、こわい気持ちもありますし、悩んでいる所です。五月には家も新築工事を開始します。これから子供達が大きくなつても、今の状態が変らない事をいつも祈っています。再婚した時退会しようと思いましたが、でも、この前の会報を読んでもう少し待つ気になりました。今回も子供の心理を表す絵のお話も大変為になりましたし、まだまだ私にとつても役立つ事が多いようです。すぐ近所にも私達のような再婚カップルが結構いる事も知りました。とても励みになります。これからもうそういう訳でハンド・イン・ハンドにお世話になりますので、どうぞよろしく。私の体験が何かの参考にして頂けたら幸いです。

○友だち探しています○

☆別居して八ヶ月、現在母と子供の三人暮らしです。離婚も条件があわず、八ヶ月があつという間に過ぎてしまいました。子が小さいので（一才四ヶ月）今は母に全面面倒を見てもらっています。この先離婚後の事、子供の事、就職の事等色々教えて頂いたり話し合える方とお友達になりたいので、「友達探しています」に載せて頂ければ幸いです。

☆バンド・イン・バンドの機関紙を心の支えとして、五年が経ちました。母（六十八才）、子供（女八才）と三人で暮らしています。お近くの方、お友達になって下さい。

☆二ヶ月前にバンド・イン・バンドに入会しました。毎月送られてくるのを楽しみにしています。別居して一年、子供のために、一応籍は

おいていますが、この状態がいつまで続くか、私自身自立していけるだけの職もなく、不安と寂しさに絶望的になっています。十三才の子供（男）がいます。私は二十四年生まれの三十八才です。今、心から友人がほしいと思っっています。近くの方でお互い往き来できる方がいらつしやればなおうれしく思います。

☆現在、離婚裁判中の二十九才です。娘（まもなく三才になります）を連れて実家で暮らしています。世間の楽しそうな親子連れをみてもおちこみ、将来のことを考えては不安になっています。

今とても友だちがほしいのです。娘も一人っ子です。親子で友だちになって下さる方がいらつしやったらと思っっています。お手紙お待ちしています。近辺の方とは、時々お会いしてお話したいなと思っっています。

「女の土曜110番」の時から「離婚110番です」の現在まで、大勢の方々とお話しする機会を得て、聴くこと、話すことの難しさを、しみじみと感じています。幸いなことに、人間は言葉を使って、他の人とのコミニケーションを、はかることが出来ますが、言葉の使い次第で、人間関係が良くも悪くもなっています。「さ

さやかな（ことば）が人を殺し、ささやかな（ことば）が人を生かす」とパスカルは言っています。私共も心してかからねばと思っっています。不用意に発した「ことば」が相手を傷つけ、そして、その事を意識しないが故に気が付かずにいる。また傷ついた方は傷ついた事を相手にそのまま伝えずに（これは日本人の感性、つまり議論したり、言い合ったりすることを、即、喧嘩と思っその事を悪と評価することによるものだと思います）いて、いつの間にか、かたくなな気持ちだけが、育ってしまっ、気が付いた時には修正がきかなくなっってしまったという例をいくつもみました。肯定的な言葉には感情をのせることは良いのですが、否定的な言葉には感情をのせず、（心）をのせて話せば喧嘩にもならず理解し合えるのではないかと思っるので

電話 110 番 雑 感

が、仲々難しい事でしょうか。とは言っても、相手が明らかに悪いと判断出来る場合は、毅然とした態度を取ることも必要ですが……。

今、本音を隠してタテマエで話をするのを良しとする傾向がありますが、こうした事が習慣になりますと、本当の気持ちさえ見えなくなってしまうのではないのでしょうか。自分の気持ちを素直に表現出来れば、人間関係のこじれも少なくなるように思います。今、自分は何を感じ、どんな想いでいるか、そして今、自分がおかれている状態はどうか、ということが意識出来れば、八方ふさがりの中にあっても、一筋の光が見え、進む方向も決まってくるように思います。そうなるように、お手伝いするのが、私共カウンセラーの役割と自覚して勉強を積み重ねて行きたいと思っっています。

（近藤静子）

電話相談は毎週土曜日（祝日はお休み）午後7時～10時。離婚のことだけでなく、子供の事、環境のこと、人間関係等一人で抱えきれない悩みを遠慮なく御相談下さい。

03（402）7354

03（402）4385

の電話で受けつけています。

振込通信欄 から

☆奈良県の会員は少ないのでしょ
うか。お友達が近畿圏にいらつし
やれば、色々と意見交換できる
と思うのですが……。奈良県・K
☆振込が遅れて申し訳ございま
せん。皆様頑張っておられますね。
うらやましく思いながら、現状維
持の状況です。神戸市・Y
☆長い間、心のささえとして拝見
させて頂いていただきました。ゆく道も
決まり安心の境地で毎日すごし
ています。市原市・O
☆振込が遅くなって申し訳ありま
せん。半年分一五〇〇円支払いま
す。そのうち、また半年分送りま
す。茨城県・O
☆合宿や会合への参加も、働きな
がらで、休日の都合もつけにくい
のですが、可能なかぎり出席させ
て頂くつもりです。但し、日常同
じような条件の方と(例・私の場
合、子供無し、親を見る)連絡を
とりたい、また共通点のない人と
のコミュニケーションも図りたい
と切望いたします。神奈川県・K

(編集部から) 子供はなく、親を
今後みていかなければならないと
いう立場の方も大勢いらつしやい
ます。どうぞ、お名前と連絡先を
誌上公開して下さい。そうすれば
きつとネットワークが広がるでし
ょう。

☆埼玉県でどこか連絡所があれば
いいですね。川越市・M

に連絡してみてください

☆東北地方、特に仙台よりも北の
活動をもっと盛んにしてほしい。
色々な人と交流が持てるようにし
てほしい。青森県・F

(連絡先として名乗り出てください
ませんか。)

☆これからも頑張ってください。う
ちの方は、主人の失業がやつと解
け、明るい春を迎えることが出来
ました。広島市・Y

☆今年こそ購読をやめようと思っ
ていました。しかしやめられなく
なりました。大変な事になりそう
です。子供達の為に残すところ四年
とがんばってきたのに。くやしい
思い。女の働く所でどうして二人
の子供を育てる程、サラリーもら
えないのか、くやしくて、くやし

くて……。東京都・A
☆永らくお世話になりありがとうございます
ございました。これで中止にして
下さい。五千円振り込ませていた
だきますので残金は何かに御用立
て下さいませ。娘も離婚して2年
半になります。1年前に良いお友
達が出来、近く再婚の予定になっ
ています。いい方にめぐり逢いほ
つと致して居ります。会員の方々
のお幸せを願って居ります。あり
がとうございました。神戸市・I
☆社会教育の仕事をしています。
縁あって円さんを婦人学級にお招
きして以来、ハンドの購読者にな
りました。仕事柄、主婦の方たち
と接することも多いのですが、ハ
ンドを通して、普段は知りえない
結婚の内側を見る思いです。そし
て、困難な状況にも負けずにハッ
スルしている方たちの文章を見る
と、同性として拍手を送りたくな
ります。頑張ってください。ちなみ
に私は30才、独身、結婚歴なしで
す。福岡県・S

☆改姓しました。離婚したてのホ
ヤホヤです。皆さんに励まされ、
こんなに幸せでいいのだろうか、
と思う日々です。東京都・M



※事務局便り※

★三月半ばより、週一回事務所の
お手伝いに来ています。アンケー
トの整理等を通じて会員の皆さん
をより身近かに感じていますが、
お便り、会への提言がもつとあれ
ばいいなと。(道)

★円さんには「電車の中で居眠り
をしているからチャンスがない」
と叱咤激励され、横浜の会ではお
母さんとオダテられ(年が一番多
いと云うだけではないか!!)、城
へ戻れば結婚になりんの期待も持
たない娘2人にこき使われ、今に
見ている、と思えど、もう再婚な
んで、が本音です。(川)

★離婚講座や研修会、ハンドの会
員手続き、その他モロモロの仕事
に追われ、胸ときめく出会いの場
もなく、結婚前から今の人で我慢
しよう(?)などという恐ろしいことを
考えてしまう自分が、私は恐ろし
いです。(S)

★誓くなったら途端に元気になる
ました。弱音吐くのはやめまーす。
(円)



第八十八回ニコニコ離婚講座

七月二十五日(土) 午後一時半～四時半。日本社会事業大学地下〇一教室(国電原宿駅下車徒歩五分、東郷神社隣)。鹿島敬(日本経済新聞婦人家庭部長)の「中高年女性の再就職作戦」と金住典子弁護士「離婚に必要な法律と知識」。二次会として円より子を囲んでの話しあいもあります。どなたでもどうぞ。

参加費一五〇〇円。要予約。

〇三・四〇二・七三五四

八月の講座はお休みです。

会合のお知らせ

★東京の会合

七月十八日(第三土曜日)

午後一時～三時

今月は、五月の会合に出席された さん さんが中心になってお料理を作して下さいます。メ

ニューは、チキンカツにひじきの煮物、ミニサラダにごはんです。子供用にオニギリ、一口カツ、サラダを一五〇円で十名分用意しています。一緒に食事をしながら、忙しくて食事を作るのが大変な人の家庭へ、お料理の好きな人が作って届けるシステムや、これからの食事のあり方などについて話し合います。

参加費七〇〇円・定員二〇名
前日までに電話でご予約下さい。
〇三・四〇二・七三五四
なお、土曜の午後はいつでも誰かがいるようにしてありますから、どうぞ会合のない日もいらして下さい。(最終土曜日は五時以降)

★大阪の会合
七月十一日(第二土曜日) 午前十時半より竹川幸子法律事務所にて。大阪近辺の方々、初めての方ぜひご参加を。前日までに必らず電話で予約を。

★横浜の会合
七月十八日(土)～十九日(日) 会員の さん宅(相模原市)で親子お泊り会。広い所で、寝袋など自参してにぎやかに、楽しく過ごしたいと思います。
八月はハンドの夏合宿があるためお休みします。
九月十八日(金) 午後六時～九時 参加費三〇〇円。横浜市婦人会館(京浜急行南大田下車、徒歩三分) 今月から、三ヶ月先までのスケジュールを載せようと思います。ぜひ皆さん、スケジュールに合わせて御参加下さい。

参加希望の方へ まで。
事務局から 全国各地から、自分の生んでいる地方で会合があればというお便りをいただきました。ハンド・イン・ハンドは読むだけでなく自分達が参加できる会ですから、会合があればと思う方が中心になって、ぜひ作して下さい。一人が二人に、二人が三人にと、お互いが抱えている生活や問題を話せる場ができることを望んでいます。

購読料について
現在つぎの三通りの方法をとらせていただいています。
①一年間三〇〇〇円(送料共)
②二年間まとめて前払いしてくださる方には、二年分、六〇〇〇円のところを五〇〇〇円に。
③出世払いもしくは免除
どうしても苦しい方は、いつでも遠慮なく申し出てください。それぞれ出費が多く大変でしょうが、期限切れの通知の入った方、またはこの折りにという方、いずれも都合のよい方法でどうぞ。
(振込先) 各地の郵便局にて
東京一四一―二〇五四二
ハンド・イン・ハンドの会

ハンド・イン・ハンドの次号は七六号、七七号の合併号で九月発行となります。
八月一日号はお休みですので、おまちがえのないように。